

廊下の突き当たり(南側)からの十分な採光で、明るく開放感のある雰囲気を演出

住まいの
提案

Vol.109



有限会社コスマス

住宅型有料老人ホーム「ナーシングホームあい暖」(群馬県前橋市)

手厚い看護師配置・医療体制で “看護付”有料老人ホームをめざす

2012年3月にオープンした住宅型有料老人ホーム「ナーシングホームあい暖(ぬくもり)」は、有限会社コスマスが運営する同社2つ目の有料老人ホームだ。常時ほぼ満室を誇る「ナーシングホームあい」(高崎市)と同様に手厚い看護師配置による医療体制を備え、重度の医療措置が必要な高齢者の駆け込み寺としてすでに地域の拠り所となりつつある同施設を紹介する。

「あい」は常に満員に近く、それでも待機者が後を絶たない状況でした。「行き場がない」という訴えを聞くたび、それに応えられないことにやりきれなさを感じていました」と、「暖」の山本幸男施設長は話す。

「医療依存度が高く、受け入れてくれるホームがない」「退院先が見つからない」など切迫した相談が多いことで、いかに「医療体制が充実した住まい」の需要が高く、そして供給が追いついていないかを思い知った同社。4月には併設デイサービス・訪問看護ステーション・訪問介護事業所・居宅介護支

2009年12月の開設以来、住宅型有料老人ホーム／高齢者専用賃貸住宅「ナーシングホームあい」(以下、「あい」)を高崎市で運営する有限会社コスマス。手厚い医療体制で地域のニーズに応え続けた同社が12年3月、新たに住宅型有料老人ホーム「ナーシングホームあい暖」(以下、「暖」)を開設した。「あい」の30室に対して、「暖」は71室と規模を拡大させている。

新たな住まいをオープンさせ
高齢者の医療ニーズに応える



A



B

A 外出等が難しい重度の入居者にも日常の変化と楽しみを持ってもらいたいとの思いから、食堂脇の水槽では熱帯魚やエビなど多様な生き物を飼育 B 1階食堂に面したナースステーション C ポップでやわらかな色彩を使った食堂 D ダークな色合いでまとめたシックな部屋 E 「退院後の高齢者を支えるため、今後はショートステイの併設も検討したい」と話す山本幸男施設長 F 畳を模した濃緑の床、土壁をイメージした壁で、和風テイストにこだわった部屋 G 全面に大きな窓を配した食堂から直接中庭に出ることができる H 穏やかな茶系の色を使用した落ち着きのある部屋 I やわらかな暖色を使った優しい雰囲気の部屋



C



D



E



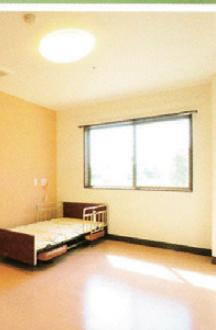
F



G



H



I

「暖」では、介護職・看護師を1..1の割合で配し、夜間は各2人を配置して手厚い体制を確保する。さらに「あい」同様、ほとんどの職員が有料老人ホーム・訪問看護・デイサービス・訪問介護（開設次第）間のシフト勤務体制をとつて、それぞれのサービスを実施。各職員が入居者とさまざまな形でかか

手厚い看護師配置と勤務体制で 入居者を「線」で支える

「暖」では、介護職・看護師を1..1の割合で配し、夜間は各2人を配置して手厚い体制を確保する。さらに「あい」同様、ほとんどの職員が有料老人ホーム・訪問看護・デイサービス・訪問介護（開設次第）間のシフト勤務体制をとつて、それぞれのサービスを実施。各職員が入居者とさまざまな形でかか

援事業所が運営を開始したほか、クリニックの併設や建物の増築を計画するなど、より多くの入居者に安心と快適さを提供する体制を着々と整えている。

日当たりがよく、いたるところに心地よい陽だまりができるコ字型の建物中央に食堂とナースステーションを置き、居室のプライバシーを守りつつ見守りやすい工夫を施した。また居室は色違いの4種類を用意し、入居者の選択の楽しみを広げている。すでに居室数以上の問い合わせを受けているが、重度の入居者が多いことから、スムーズな運営のため当初は1階のみオープン。2階は7月2日から稼働させる予定だ。

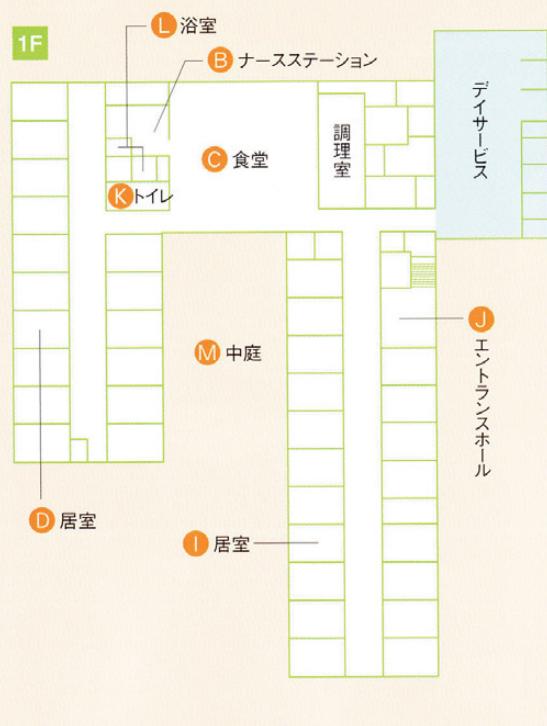
住まいの提案

有限会社コスモス
住宅型有料老人ホーム「ナーシングホームあい暖」



群馬県前橋市川曲町1-1
☎ 027-289-3300

- 類型：住宅型有料老人ホーム
- 居室：71室(13.7～16.9m²)
- 建物構造：鉄骨造2階建
- 敷地面積：4,499.88m²
- 延床面積：2,385.19m²
- 入居金／敷金：0円
- 月額費用：10万9,700～11万5,700円(家賃相当額4万7,000～5万3,000円・管理費2万4,000円・食費3万8,700円)、介護保険1割負担・医療費・医療材料費等別途



J 色彩の変化で遊び心と落ち着きを兼ね備えたエントランスホール K 介助がしやすい余裕のあるトイレスペース。ドアでつながった対反側には向きを反転させたトイレを用意し、入居者の状態に合わせて使い分ける L 個浴と機械浴を備えた浴室 M 中庭には季節感のある樹木や花を増やしていく予定

今後は「医療」の充実に加えて生活援助にも力を入れ、「生活の質」も追求していくという。いわば「介護・看護付き」の施設をめざし、職員の質の向上を図りながら着実に運営していく所存だ。

「看護師確保や勤務管理など課題はありますが、それは経営努力の問題。看護師と介護職の連携体制と安心して働ける環境を整え、ご入居者・ご家族を含めた地域の方々を支えていきたい」(山本氏)

と説明する。

わるので「デイサービスでの一面しか知らない」「○曜日の○時の状態しかわからない」ということがなく、「各サービスの『点』ではなく、施設全体として継続した『線』で支えられる」(山本氏)という大きな利点がある。また、入居者が顔なじみの職員との関係をつくりやすいほか、職員同士の情報共有・連携が進んでやりがいにもつながるという。山本氏は「介護保険制度では、頻回の医療処置が必要な方などは訪問看護だけではカバーできません。ご入居者やご家族にサービスの制約を負担に感じさせないシステムとして、この方法は有効」と説明する。

(撮影：関口宏紀 文：編集部)